

技能五輪

5月25日から6月1日まで、フィンランドのヘルシンキで技能オリンピックが開催されました。私は労働担当政務官ということで、5月31日、ヘルシンキに行っていました。

技能オリンピックというのは、いろいろな職能分野の高い技術を持った人たちの力を競うもので、正式には、国際技能競技大会（World Skills Competition）と呼ばれています。

この技能五輪は、1950年にスペインと隣国ポルトガルの若手の技術者達各12人の選手がその技能を競ったことを契機として、その後、参加国が増え、技能オリンピックと呼ばれるにふさわしい国際大会に発展してきました。出場選手は22才以下の青年とされ、現在は、世界各国持ち回りで、2年に一度開催されています。日本は1962年の第11回大会から参加してきましたが、毎回、優秀な成績を収めてきました。また、日本では1970年（千葉）、1985年（大阪）の2回開催されています。

今回のヘルシンキ大会の参加国は38カ国、出場選手総数は660人。

大会への出場選手は、まず前年、国内大会が開かれ、優秀な成績を納めた選手が選ばれることになっていますが、今回は、昨年、岩手県で開催された全国大会での優勝選手34人が選ばれ、出場しました。

34選手の技能専門分野は、ポリメカニクス、同製造チームチャレンジ、メカトロニクス、機械製図、CNC マシニング、溶接、タイル張り、自動車板金、配管、電子機器組立て、電気、工場電気設備、レンガ積み、石工、広告技術、家具、建具、建築大工、貴金属装身具、フラワー装飾、美容・理容、洋裁、洋菓子製造、自動車工、西洋料理、レストランサービス、車体製造、造園、ITPC ネットワークサポート、グラフィックデザイン、情報ネットワーク施工、鉄工でした。

私は、選手達とは、岩手県の全国大会、そして、ヘルシンキ大会前、皇居訪問や壮行会などでお会いしており、顔なじみ。全員19才～22才の若者達ばかりですから、息子、娘のような気持ちで応援してきました。

結果は、金メダルは5個でトップ、銀1個、銅2個、敢闘賞7で、総合では5位という成績でした。メダルを取った選手も、残念ながら逃した選手も、皆さん本当にがんばってくれました。

（金メダル）

ポリメカニクス、メカトロニクス、機械製図CAD、CNCマシニング、情報ネットワーク施工

（銀メダル）

電子機器組立て

（銅メダル）

製造チームチャレンジ、自動車板金

次の技能オリンピック国際大会は、2007年、静岡で開催されます。6月1日、大会最終日に行なわれた閉会式で、フィンランド代表より、技能五輪旗を受け取り、次回開催国代表としてスピーチを行いました。

この大会には、上述のように西洋料理部門もあり、今回も出場、残念ながらメダルは逃しましたが、大健闘していただきました。西欧人の審査員の舌による評価は日本人調理師の選手には、必ずしも有利とは言えないかもしれませんが、日本人の味覚の繊細さ、そして創り上げた料理の美しさ、芸術性は世界一だと、私は信じて疑いません。次回もまた大奮闘していただき、調理大国日本を世界に知らしめてほしいと思います。